

保幼小連携・接続 ～あなたは何をはじめますか

架け橋期の子どもたちに～

講師 大林 照明 佛敎大学特任敎授



大林先生は、京都市架け橋会議委員及びコーディネーターであり、実際の取組からお話をしてくださったので、自分だったら今から何ができるだろうかと、イメージを膨らませながら、聞くことができました。また、グループ討議の時間もたくさんあり、他校種の先生方の考えに触れ、互いの違いや共通点を考えることができました。グループで考えることを通して、より大林先生のお話も理解しやすくなり、一人一人が新しい発見をしたり、やってみようと思いを後押しされたりする研修でした。

○グループで話し合おう！

あそびを通して	教科学習を通して
方向目標 ～を味わう、～を感じる、～を楽しむ	到達目標 ～できるようにする
ねらいは方向付けを重視し生活やあそびを通して総合的に引き出す	ねらいは各教科等の授業(学習)において達成する

子どもの姿を元に話し合うことで、見えてくることがある。そうすると、児童・幼児の理解が進む。そして、連携をどうしていくか、少し見えてくるでしょう。
実現するため、共通の視点があるといいですね。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

1. 健康な心と体
2. 自立心
3. 協同性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活との関わり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 数量・図形、文字等への関心・感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現

グループの人数に合わせて「10の姿」の項目を選び、その項目をエピソードにしてください。出来上がれば、お話しレールをして、幼稚園等での子どもの様子を再現しましょう。

①山田さんは鉄棒が大好き。ある日、Bちゃんが鉄棒で「布田干し」をしているのを見て、「すごいなー。ぼくもやってみよう」と思い、鉄棒をつかみました。でも怖くてできません。「やってみよう」という思いで次の日も挑戦しました。また次の日は朝から挑戦しています。もう少して出来そうです。

②林くんは、みんなで「鬼ごっこ」をします。「ぼくが鬼になるよー」「わー、にげろー」林くんがつかまえに行きました。途中、花壇の隅に置いていた泥団子を思い出し、花壇へ行ってしまいました。それを見つけた友達は「なんでやるの？ずるい」と言ってます。林くんは、少し機嫌悪くなりましたが、すぐに、「あっ、そうか、ごめん。」と言って遊びに戻りました。

①健康な心と体
(②自立心)

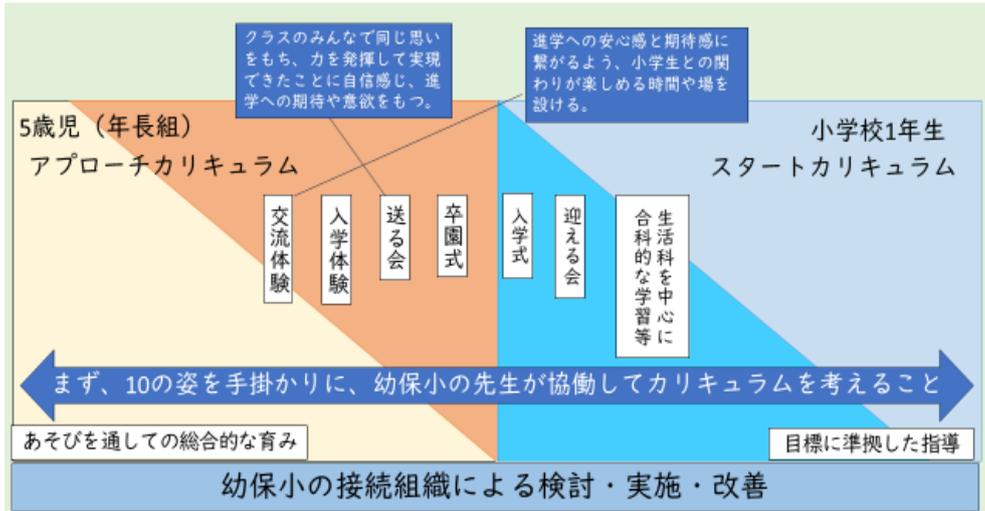
④道徳性・規範意識の芽生え
(⑤協同性)

①手のひらを開き、読み聞かせをするように始める。終われば手のひらを閉じる。次の人②も同じようにしてお話が続いていくようにする。

10の姿の1つを選んでエピソードをつくり、おてて絵本にしてグループで発表し合おう。1つのエピソードの中に、10の姿がいくつか含まれていることに気づくはず。
知識や道徳性等10の姿は、様々に関連しながら日頃の遊びや生活を通して、子どもたちの中に芽生える。グループで話すことで、たくさんの芽生えに気づけたでしょう。小学校の授業や生活でも同じことが言えると思う。

おてて絵本(両手を本に見立て、物語を作り上げていく親子遊び。絵本作家サトシン(本名:佐藤伸)が提唱されている即興で創作する「親子あそび」)を用いて。

○大林先生より



左の図がカリキュラム作成イメージ。まずは、着目しやすい行事をどうしていったらいいかを考えることが、分りやすい。「10の姿」を手掛かりにして接続期を考える。
 交流体験でも幼稚園側のねらいも含め、一緒に中身を考えていく。どう育てていこうかということと共に考えていくための架け橋期のカリキュラムなのです。



<連携におきて>

○組織的な取組へ

- 「チーム架け橋」“チーム架け橋”を誕生させる **まずは！知り合いましょう！これだけの先生がいる！**
- 「架け橋コーナー」“チーム架け橋”で架け橋コーナーをつくる **見える化**
 (掲示は、園も小学校もかわりのあるものがある。生活の分かるもの・クイズ形式にするのも楽しい)
- 「小学校会場の交流会の開催」“チーム架け橋” 幼保小連携・接続主任による企画
校長先生のリーダーシップで！ 年1回から すぐに声をかけあえる関係になれるように！

○保育・指導の取組へ

- 「学年・クラス、わたしのお気に入りの場所」 **場所が変わって環境・友達関係が変化 「きっかけ」に！**
 ・認知力 ・自己コントロール力(制御能力)の育成・安心と人間関係
- 「毎日の発見」 **オノマトベを使って** 再現したりするなど、経験と知識をつなぐ言語活動
- 「経験を疑似的体験に置き換える」これまでに経験したことを、疑似的経験に置き換えて、操作する。
経験をたくさん積んでおくことが、小学校の疑似的な経験に置き換えるときに役に立つ



<参加された方からは・・・>

本日はありがとうございました。保幼小連携、架け橋プログラムについて、どこか難しいと感じていましたが、グループ協議等しながら楽しく学ばせていただくことができました。学んだことを生かしていきたいと思えます。



グループの先生との対話や、やりとりの回数が増えると、思いを表現する気持ちが高まりました。先生同士の距離が近づくことで、楽しい気持ちが膨らみました。連携でも活用していきたいです。



具体的に幼保小連携・接続の何から始めていけばよいのかのヒントを得られました。ぜひとも近隣の小学校の先生方と共有したいです。



小学校の先生とも交流させて頂いたり、ロールプレイがあったりと、色々な方法で子どもの育ちの見方を学ぶことができました。今後の幼保小接続の取組に返していけたらと思います。



おてて絵本「10の姿」を作る時、戸惑いましたが、保育園・幼稚園の先生方の話を伺い、子どもたちの姿がよくわかりました。



架け橋期にはまず幼保小でお互いのことを知るということがスタートの第一歩だと思いました。



今回の研修には、小学校からの参加が多く、全てのグループが就学前施設と小学校の先生方で話し合うことができました。御参加された皆さんがとても楽しそうに討議をされている姿がとても印象的でした。



顔を見合わせながら話をする大切さを改めて感じ、様々な場所で架け橋が架かっていくお手伝いをできたら嬉しいと改めて考えることができました。皆様、ありがとうございました。